

令和 8 年度
リウマチ月間リウマチ講演会
一般・患者さん向けの講演会 I

多職種連携でつくるリウマチ診療の未来

プログラム・抄録集

日時：令和 8 年 6 月 6 日（土）

会場：東京国際フォーラム ホールD5（ハイブリッド開催）

実行委員長：中川 夏子 公益財団法人日本リウマチ財団 理事
兵庫県立加古川医療センター リウマチ膠原病センター長

主催：公益財団法人日本リウマチ財団
後援：厚生労働省
一般社団法人日本リウマチ学会
公益社団法人日本整形外科学会
一般社団法人日本臨床リウマチ学会
公益社団法人日本リハビリテーション医学会
公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本薬剤師会
一般社団法人日本病院薬剤師会
全国保健師長会
公益社団法人日本看護協会
公益社団法人日本理学療法士協会
公益社団法人全国病院理学療法協会
一般社団法人日本作業療法士協会
公益社団法人日本介護福祉士会
一般社団法人全国訪問看護事業協会
公益社団法人日本リウマチ友の会

対象者：一般・患者さんとそのご家族、医療・福祉・教育関係者など
本講演会に関心のある方ならどなたでも参加いただけます。
ただし、医療関係者は単位対象外です。

会場開催日時：

令和8年6月6日（土）12:00～14:10

オンデマンド配信期間：

令和8年6月15日（月）9:00～7月31日（金）23:59

期間中は、繰り返し視聴することができます。

視聴ページ URL：

<https://rheuma2026.net/viewing.html>

実行委員長挨拶



令和8年度リウマチ月間リウマチ講演会実行委員会
実行委員長 中川 夏子
日本リウマチ財団 理事・兵庫県立加古川医療センター リウマチ膠原病センター長

このたび本年6月6日（土）および7月5日（日）に東京国際フォーラムにて開催の、日本リウマチ財団主催の「令和8年度リウマチ月間リウマチ講演会」実行委員長を拝命しております中川夏子です。

本年度の講演会では、「多職種連携でつくるリウマチ診療の未来」をメインテーマに掲げ、関節リウマチをはじめとするリウマチ性疾患とともに生きる患者さんを中心に据えながら、医療と支援のこれからのあり方について皆さまと共に考える機会としたいと存じます。

近年、関節リウマチの薬物治療は目覚ましい進歩を遂げ、多くの患者さんにおいて疾患活動性の抑制や生活の質の向上が実現してきました。早期診断・早期治療の重要性が広く認識され、寛解や低疾患活動性の維持が現実的な目標となっています。しかしその一方で、リウマチ性疾患は長期にわたり向き合う慢性疾患であり、患者さんの高齢化や併存疾患の増加、社会的背景や生活環境の多様化などにより、医療現場にはより包括的で柔軟な対応が求められています。薬物治療に加え手術治療やリハビリテーションの重要性も増していますし、治療の選択や継続においては、医学的妥当性のみならず、患者さんの価値観や生活状況を踏まえた支援が不可欠であり、医師と患者さんだけで完結する医療には限界があります。

こうした背景のもと、医師のみならず、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種がそれぞれの専門性を発揮しながら連携・協働するチーム医療の重要性はますます高まっています。多職種が相互に情報を共有し、立場を越えて意見を交わし合うことで、患者さん一人ひとりの病状だけではなく、生活や社会参加までを視野に入れた支援が可能になります。その積み重ねが、真に患者さんに寄り添うリウマチ診療の実現につながるものと考えております。

本講演会では、最新のリウマチ診療に関する知見に加え、多職種連携の実践例や現場での創意工夫、患者さんの生活を支える視点について幅広く共有する予定です。専門職の立場を越えて学び合い、対話を深めることで、明日からの診療や支援に生かせる具体的なヒントを持ち帰っていただければ幸いです。本講演会が、患者さんご家族、そして医療従事者の皆さまにとって、新たな気づきと連携のきっかけとなり、より良いリウマチ診療の未来をともに描く一歩となることを願っております。

プログラム

一般・患者さん向けの講演会 I

6月6日(土) 東京国際フォーラム ホール D5

式典・授賞式 (12:00 ~ 12:40)

会場 オンデ

式典

挨拶	日本リウマチ財団 理事長	川合 眞一
来賓挨拶	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 課長 衆議院議員	鶴田 真也 田畑 裕明

授賞式

日本リウマチ財団リウマチ医学賞

山本 元久 東京大学医科学研究所附属病院リウマチ・膠原病内科 准教授

塩川美奈子・膠原病研究奨励賞

秋山 光浩 慶應義塾大学医学部内科学(リウマチ・膠原病) 専任講師

日本リウマチ財団リウマチ福祉賞

小林 竹子

大澤富美代

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰<看護師部門>

洲崎みどり 八木病院

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰<薬剤師部門>

雪矢 良輔 天理よろず相談所病院

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰<理学療法士部門>

菱川 法和 京都府立医科大学大学院医学研究科リハビリテーション医学 学内講師

リウマチ月間特別講演 (12:40 ~ 14:10)

会場 オンデ

第1部 リウマチ診療の現在地について—多職種連携で支える、いまの治療とこれから—

座 長：**中川 夏子** 日本リウマチ財団 理事

演 者：**川合 眞一** 日本リウマチ財団 理事長

第2部 パネルディスカッション

「リウマチ診療のこれから—治療・生活・社会をつなぐチームの力—」

司 会：**中川 夏子** 日本リウマチ財団 理事

パネリスト：**川合 眞一** 日本リウマチ財団 理事長

パネリスト：**中原 英子** 大阪行岡医療大学医療学部 教授

パネリスト：**松田真紀子** 明陽リウマチ膠原病クリニック 看護師長

パネリスト：**安野 伸浩** 帝京大学医学部附属病院 薬剤部長

パネリスト：**林 正春** JA 静岡厚生連中伊豆温泉病院
医療技術部長兼作業療法科技師長

受賞者の研究題目・功績

【令和8年度リウマチ月間リウマチ医学賞】

リウマチ性疾患の本態解明、治療法の開発などに関する分野で、その発展に大きく寄与する可能性を有した独創的研究に対して贈られる賞です。

山本 元久 東京大学医科学研究所附属病院リウマチ・膠原病内科准教授
研究題目：IgG4関連疾患の分子病態解明と創薬標的の統合的解析による個別化治療戦略の構築

【第13回塩川美奈子・膠原病研究奨励賞】

膠原病と闘い苦しみ、薬石効なく亡くなられた故塩川美奈子様ご本人およびご遺族の意思により創設された賞です。

秋山 光浩 慶應義塾大学医学部内科学（リウマチ・膠原病）専任講師
研究題目：高齢発症 SLE における CX3CR1⁺ 細胞傷害性 T 細胞の病態的役割と個別化治療への応用

【令和8年度日本リウマチ財団リウマチ福祉賞】

リウマチ性疾患に悩む患者さんに対して、永年に亘る社会的救済活動を通じて、その福祉向上に著しく貢献のあった方々に贈られる賞です。

小林 竹子
大澤富美代

【令和8年度日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰】

リウマチ性疾患に関わるリウマチ専門職として、継続的にリウマチ性疾患へ対する医療・ケアの向上に大きく貢献した個人及び団体を表彰するものです。

看護師部門

洲崎みどり 八木病院
活動実績：リウマチ性疾患の診療、看護、治験・臨床研究、看護師主導の研究会から見出した、リウマチ性疾患の看護とリウマチ性疾患に携わる看護師の教育と育成

薬剤師部門

雪矢 良輔 天理よろづ相談所病院
活動実績：臨床現場におけるリウマチ治療に関する患者教育、学会発表、講演の実績
実臨床におけるバイオシミラーの有効性と安全性について

理学療法士部門

菱川 法和 京都府立医科大学大学院医学研究科リハビリテーション医学 学内講師
活動実績：リウマチ性疾患におけるサルコペニアおよび身体不活動の実態調査とリハビリテーション治療法の開発

受賞者による記念講演をオンデマンド配信でお届けいたします。

期間中は、繰り返し視聴することができます。

オンデマンド配信期間：令和8年6月15日（月）9:00～7月31日（金）23:59

リウマチ診療の現在地について —多職種連携で支える、いまの治療とこれから—

日本リウマチ財団
理事長 川合 眞一

関節リウマチの診療は、近年の治療薬の大きな進歩もあり、少なくとも専門医療機関では以前とは全く異なった風景がみられるようになりました。以前は、患者さんが関節の腫れや痛みを訴えると、医師や、看護師、薬剤師などの診療スタッフができることは、都度痛みを和らげるであろう薬や補助具などの少ない選択肢を提示し、症状によってはリハビリ科などに紹介して症状に合った理学療法や作業療法を指導してもらうことの限界でした。それに対して最近の診療風景の特徴は、患者さんばかりでなく、診療スタッフの側にも笑顔が明らかに増えたことで、まずは患者さんの関節症状の訴えが減り、診療スタッフの対応では冗談も交えて説明できる余裕が生まれています。

確かに、最近の関節リウマチを代表とするリウマチ性疾患の診療は以前に比べれば格段に進歩しましたが、一方でこうした診療は最新テクノロジーに支えられているだけに、いくつかの問題点が残っています。飲み薬や注射剤の効き目や安全性の情報は適切に患者さんに伝わっていますか？検査を含む診療のコストや薬の副作用などの情報も大事です。でも、心配し過ぎてもしっかりの高度医療を十分に生かせません。薬が効いたとしても、悪かったときに生じた運動機能の低下は回復し、その後も維持されていますか？これからの治療の方針や合併症のことも十分に対策していますか？結婚や妊娠で不安はないですか？

リウマチ診療は、当然ですが専門医だけではできず、日本リウマチ財団では以前よりトータルマネジメントという目標を掲げて非専門医を含む医師、看護師、薬剤師、および理学療法士・作業療法士などの多職種が、互いに協働してリウマチ診療に当たることを目指した登録専門職制度を運営してきました。ただ、現在の登録制度のみでは十分に機能していないことは事実で、更なるレベルアップを財団の次の目標としました。具体的には、各職種の学会の協力もいただいて、現在の登録専門職の上位にリウマチ療養指導士(仮)といった、客観的な評価にも足る資格制度を来年度から開始しようと計画しています。

本講演では、まずは関節リウマチ診療の現在地を私なりにまとめ、そこに残るさまざまな問題点と、その解決策の一つとして当財団が取り組んでいる、トータルマネジメントを目標とした多職種連携の現状とこれからについてお話します。

リウマチ診療のこれから —治療・生活・社会をつなぐチームの力—

日本リウマチ財団
理事長 川合 眞一

リウマチ性疾患の診療は専門医だけで行うのは不可能で、第1部の講演でも述べたように日本リウマチ財団では以前よりトータルマネジメントという目標を掲げて非専門医を含む医師、看護師、薬剤師、および理学療法士・作業療法士などの多職種が、互いに協働してリウマチ診療に当たることを目指してきました。そうした患者さんのQOLを高めるチーム医療の具体例を医師の立場からまとめてみたいと思います。

リウマチ診療のこれから —治療・生活・社会をつなぐチームの力—

大阪行岡医療大学医療学部
教授 中原 英子

関節リウマチ医療は、近年の治療薬の進歩により、寛解（関節の痛みや腫れがほとんどなくなり、病気の勢いが十分に抑えられた状態）や関節破壊の進行抑制を目指せる時代となりました。一方で、どれほど効果的な薬剤であっても、治療を継続できなければ十分な効果は得られません。

薬の種類や量は患者さん一人ひとりの状況に合わせて調整されますが、治療についての説明が十分でなかったり、患者さんの思いや意向を十分に理解できていない場合があります。その結果、副作用への不安や経済的負担など、さまざまな理由から患者さんが薬を適切に使用できない場合も少なくありません。こうした課題は医師だけで対応するのは難しく、看護師など多職種が連携した支援が必要となります。また、患者さんが年齢を重ねるにつれて、これまでの暮らしを続けていくために生活面での支援も必要となり、福祉の専門職との連携も欠かせません。

今回、患者さんが“言いづらい”とためらうことなく自身の思いを医療者に伝えることができ、また医療者が患者さんの暮らしや意向を大切にしながら、治療・生活・社会をつなぐ医療を実現できるように、みなさまと一緒に考えてみたいと思います。

リウマチ診療のこれから —治療・生活・社会をつなぐチームの力—

明陽リウマチ膠原病クリニック
看護師長 松田 真紀子

リウマチ診療は、生物学的製剤や JAK 阻害薬など治療の進歩により、症状をコントロールしながら生活できる時代になってきました。一方で患者さんは、痛みや疲労、薬の副作用への不安、仕事や家事との両立、将来への心配など、さまざまな悩みを抱えながら療養生活を送っています。症状が周囲に伝わりにくいことや、病状の変化が見通しにくいことから、不安を抱えながら日常生活を送っている患者さんも少なくありません。

近年の看護では、「病気をみる」だけでなく、「その人の生活や人生を支える」という視点が重視されています。看護師は、患者さんを生活者として捉え、一人ひとりの価値観や生活背景を大切にしながら、療養相談や看護外来を通して支援を行っています。治療を続ける中で生じる不安や迷いに寄り添い、日常生活の工夫、社会制度の活用、多職種との連携などを通して、患者さんが自分らしい生活が続けられるよう支えることも重要な役割です。

本講演では、「治療」「生活」「社会的支援」の視点から、これからのリウマチ診療に必要な支援について考え、患者さんが安心して療養を続けていくために大切なことを皆さんと一緒に考えたいと思います。

リウマチ診療のこれから —治療・生活・社会をつなぐチームの力—

帝京大学医学部附属病院
薬剤部長 安野 伸浩

近年のリウマチ治療は、生物学的製剤や JAK 阻害薬といった優れた薬剤の登場により劇的に進化しました。これらのお薬は過剰な免疫を整えて強い炎症を根本から鎮め、関節の破壊を止めて、症状が落ち着いた「寛解（かんかい）」状態を目指すことを可能にしています。

一方で、高額な薬剤費による経済的負担、特有の副作用のひとつである感染症リスク、妊娠・出産・育児などのライフステージに合わせた薬の選択、さらには災害時の薬の確保など、患者さんは様々な課題に直面します。

こうした複雑な問題に対し、現在では医師をはじめ、看護師、薬剤師、リハビリスタッフなどが専門知識を活かして連携する「チーム医療」が実践されています。チーム医療は、病気の早期発見や回復を促して患者さんの生活の質を高めるだけでなく、医療の安全や質の向上にも欠かせません。

今回は薬剤師の立場から、リウマチ治療における薬の安全性や適切な管理方法などについて、皆さんと一緒に議論を深めていきたいと思います。

リウマチ診療のこれから —治療・生活・社会をつなぐチームの力—

JA 静岡厚生連中伊豆温泉病院
医療技術部長兼作業療法科技師長 林 正春

関節リウマチ診療ガイドライン 2024 では、「作業療法」は患者の主観的ではありますが治療効果がある治療法として推奨されています。日本における関節リウマチ治療で、「薬物療法」「手術療法」そして、「リハビリテーション」は、以前より重要な治療として捉えられています。しかし、作業療法は具体的な治療介入やその効果につきましては、まだまだ一般的に知られていない部分が多くあります。また、作業療法は治療的介入以外に、生活行為自立支援や就労など社会参画につなぐ支援も行います。今回は、その具体的介入を事例を通じて紹介し、「作業療法のつなぐ力」をお伝えできればと思います。

日本リウマチ財団ホームページをご覧ください

日本リウマチ財団ホームページでは、

リウマチのような症状がある、専門医療機関への受診をすすめられた、リウマチの治療を受けたいがどこへ行ったらいいかわからない等、リウマチの専門医療機関を探している皆様のお役に立てるように、日本リウマチ財団のホームページ上で日本リウマチ財団登録医師、リウマチケア看護師、リウマチ財団登録薬剤師、リウマチ財団登録理学・作業療法士の所属する医療機関を掲載しています。

※ホームページへの掲載を希望した日本リウマチ財団登録医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士を掲載しています。



公益財団法人日本リウマチ財団 事務局

〒105-0004 東京都港区新橋 5-8-11 新橋エンタービル 11 階

TEL 03-6452-9030 FAX 03-6452-9031

E-mail : jrf@rheuma-net.or.jp

URL : <https://www.rheuma-net.or.jp/>



日本リウマチ財団HP



日本リウマチ財団公式X